



ほたるっ子

磐梯第一小学校
学校だより第5号
令和2年6月12日
文責:校長 酒井康雄

子どもたちに意識してほしい「これでいいのか？」

以前、授業の中で、「先生、終わりました。次、何やったらいいですか。」とやる気満々な子どもの姿が見られました。私は、「よくがんばったね。次は、〇〇をやるといいよ。」という指導をしました。その後も、「先生、次は何やったらいいですか。」と聞きに来たので、同じような指導をしました。

とても素直で、言うことを聞く子どもたちでした。でも、あるとき、子どもたちの大切な学ぶチャンスを生かし切れていなかったことに気付きました。それは、**子どもたち自身にやったことを見直したり、次に何をしたらよいか考えさせたりすることを育てる場面で、教師が判断して考えさせる場を奪ってしまっていたのではないかと考えたこと**がありました。

その後、特に強く感じたのが、東日本大震災の時です。何が正しい方法で、何が正しい答えか分からない時こそ、「これでいいのか？」と自分自身に問い直し、その状況の中でよりよいものを見いだす。その中で、さらに新たな課題を見だし、解決していこうとする……。

この状況は、新型コロナウイルス感染の現在の状況と似ているのではないのでしょうか。**これからの時代、今まで以上に子どもたちには答えが一つしかない問題もあれば、答えが見つからない問題にも直面することが多くなる**と思います。そんな時代を生き抜くためにも、**自分から課題を見だし、よりより解決方法を考えていく力が必要**になってくるのではないのでしょうか。

自分の子育てを振り返ると、家庭において、つい「〇〇しなさい。」「こうした方がいいよ。」と子どもに言うてしまうことが多かった気がします。日常生活の中で、常に子どもに振り返りをさせるのは大変ですが、**成長に合わせて自分自身の行動や言動を「これでいいのか？」と考えさせる習慣を身につけさせることが大切**だと思いました。

教師も親も、一生、子どものそばに寄り添い、判断するわけにはいきません。ぜひ、小さいうちから**お子さんに「それでいいのか。もう一度考えてみて！」と声をかけることを意識**してみましよう。そのうち、子ども自身が自分で判断して学習したり行動したりする気持ちが育ってくると、子どもの自立とともに子育ても楽になっていくのではないのでしょうか。